

議会報告会の質疑応答の概要

【参加者】高齢化が進み、在宅医療介護の拡充についてどのように進めていくのか。

【委員】特別委員会で質疑があり、担い手の拡大を要望した。29年度は予算を増額し、相談窓口を開設した。また、相談体制の充実を図り、人件費の増額につなげた。相談窓口以外にも訪問での相談を受けることも29年度から始めている。

【参加者】サービス内容を知らない人が多く、多くの市民に知っていただき、制度を広げていく必要があるのではないか。

【委員】在宅介護・医療は家族が大変であり、市民に対し市のサービスがどのようなものがあるのか知らない人も多く、周知していこうという議論もあった。環境厚生常任委員会でも議論していく。

【参加者】保健所の運営経費の採算と道の駅の収支について伺う。

【委員】29年度4月から県から市に保健所が移行され、歳出予算の増額の中で大体4億2600万円の負担が増え、さまざまな保健所運営事務を受けている。どれだけ市の財政に影響を与えるか、臨時財政対策債であったり市債の発行であったり、具体的にどう財源を確保したかは見えにくいですが、1年間動いていく中で事業をしっかりと見ていきたい。

道の駅はどういう形で運営していくかは決まっていないので、試算をとという議論は予算特別委員会ではなかった。

【委員】道の駅について、今年度は主に用地取得に向けて進めている。予算も3億4000万円ほど通過し、茅ヶ崎市が管理する部分と県が管理する部分とを住み分けしているところである。

【参加者】保健所政令市になるに当たり職員を採用したが、県のときに比べ、このままだと足りないのではないか。人件費の増加が懸念されるがどうか。予算の持ち出しに対し、収入が少ないのではないか。

【委員】職員の給与については29年度、6億3000万円を計上し、内訳は手元に資料がないが、2億6000万円ぐらいは本市の既存事業でやっている。予算特別委員会で議論はなかった。交付金と合わせて増減がどうだったのかは、時間をいただければきちんと回答する。

【委員】県のときは寒川の分と福祉事務所としての機能も含めてなので、その時とはベースが変わってきているので、金額も変わっている。

【参加者】（仮称）茅ヶ崎公園体験学習施設整備事業について、テニスコートの移設については当初5面で進めていた。移設に入ったら途中で距離が足りないということで5面でなく4面になった。一体どういう経緯なのか分からない。この事業に根拠がなく、議会としてどういう判断をしたのか。市民に対し5面と言って4面になったのはなぜなのか。

【委員】福祉会館、青少年会館が合築して、青少年会館のリニューアルの中で進んでいる事業で、5面から4面になったことは具体的に予算特別委員会で質疑はなかった。こういった運営手法についてかの審議はあった。5面から4面になったのは前年度なので決算の段階で議論していかなければならないが、市民の声は十分聞いたかということは、説明があった時には聞き、聞きましたという担当課の回答もあったが、予算特別委員会の場では審議していない。

【委員】今テニスコートがある場所に複合施設を建てた方が、解体の工程、どのような形で利用するのかを考える上で、有利になる。その中で移設する時に5面になる話が出た。5面とするのを目的に移設したわけではない。

【委員】テニスコートだけでなく、全ての面において公共施設が市民のために有効にしっかりと機能する施設となるかの質問は出た。市としてはさまざまな形で恩恵が受けられる施設にし、市民のニーズの変化に対応した運営管理にするという回答は得ている。今後、テニスコートのようなことがないように、今後の運営も市民のニーズに応えられるように予算特別委員会の中でチェックしていきたい。

【参加者】市の財政状況をどのように考え審議しているのか。小児医療について聞くと全県でやっているからやるのか。自主財源についてどのように考えているのか。

【委員】自主財源としては6割、一方で自主財源でなく市長が自由に使えるとなると、經常収支比率で經常的に入ってくるお金に対し、經常的に出ていくお金、その割合が98%ということでおよそ2%の自由度がある。一般財源で言うと750億円、だいたい15億円ぐらいが自由に使える。茅ヶ崎市の財政が窮屈になっているということで危機感を持っている。小児医療は他がやっているからやるのではなく、議会としては子育て世代への政策の拡充を訴えてきたので、それに行政がついてきた。

【委員】財源の捻出が非常に厳しい。歳入の面から考えると硬直化が懸念され、今回も不足分は市債の発行や財政調整基金からの繰り入れで何とか歳入を賄って、先送りできない事業を予算で計上した。市債は去年に比べ17億円ほど増え、83億円、市債を発行している。ほとんど財政調整基金がなくなり、借金が増えて預金がなくなっている。これから持続的にどのように行政運営していくのか、大変重要になる。どうやって先を見ながら進めていくのか、予算特別委員会では議論した。

【参加者】軽自動車に乗っているが環境問題もあり軽自動車税について、新しい軽自動車は安く、12、13年経ったものは古いということについて議論があったか。

また、88歳の方への敬老祝金がなくなったが、5000円が無理なら3000円

という議論はなかったのか。

コミュニティバスを中島に通してほしい。従来からお願いしてきたが、どのような議論があったか。

- 【委員】コミュニティバスについて、予算特別委員会で交通不便地域についての質疑があった。運行の方法や柳島、中島、赤羽根地域の坂道の所などの状況をアンケートを実施したり、地元の勉強会などを実施している。どのように進んでいくのかこれからも取り組んでいきたい。
- 【委員】予算特別委員会の中で議論はなかったが、軽自動車税については税率の問題なので国のことではあるが声をあげていくことが大事なので、しっかりと受け止めたい。
- 【委員】敬老祝金については予算特別委員会では議論はなかったが、約900人分の約450万円が今回廃止された。